

日本舞踊西川流

四世家元 ▶ NISHIKAWA KAZUMASA

西川 千雅さん

天保12年、西川鯉三郎が名古屋に創設して以降、当地を代表する日本舞踊の家元として舞踊の伝承・披露を続けてきた日本舞踊西川流。今年新たに、終戦直後から続く名古屋をどり「名古屋をどりNEO傾奇者」として刷新するなど、伝統芸能に新しい風を起こし続ける四世家元の西川千雅さんにお話を伺いました。

Group Data | 団体概要

日本舞踊西川流

[創業] 1841年
 [所在地] 名古屋市昭和区駒方町2-66-1
 [TEL] 052-831-7106
 [URL] <http://www.nishikawa-ryu.com/>
 [事業内容] 舞踊指導、舞台公演開催



「伝える」ために変わり続ける
 伝統芸能だからこそ



「名古屋をどり」は、1945年の終戦直後から続く、西川流の代名詞とも言うべき舞踊公演。今年は、伝統芸能にエンターテインメント要素を取り入れた「名古屋をどりNEO傾奇者」として刷新し、10月15・16日に鶴舞公園内にある名古屋市公会堂で公演します。

時代に合わせた柔軟な発想力と行動力で、活動の幅を広げていく

当派は、天保12年（1841年）、西川鯉三郎が江戸から名古屋に移り、初世家元になったことに端を発します。日本舞踊の五大流派の一つ宗家西川流を源流に持ち、別派として当地名古屋に創設しました。現在は日本舞踊の指導と舞台公演を事業の柱としています。

西川流をほかの流派と比較した際の特徴を挙げるとすれば、柔軟性に富み、新たな事柄へ積極的に挑戦している点です。その一例が、二世家元西川鯉三郎により創始され、1945年から現在まで続く、当派を代表する舞台公演「名古屋をどり」です。日本舞踊を「興行」として定着させ、新しい作品を生み出す「発信基地」として数多くの創作舞踊を生み出してきた結果、多くの人々に親しまれ、名古屋の秋の風物詩として定着しました。

また、三世家元西川右近は、日本舞踊を用いた健康運動N.O.S.S（日本おどろスポーツサイエンス）を考案しました。これは、スポーツ科学の第一人者、中京大学の湯浅景元名誉教授との合同研究で、日本舞踊が持つ「和」の動きにスポーツ科学を取り入れた全く新しいエクササイズです。現代人に必要な3大運動（有酸素運動・筋力トレーニング・ストレッチ）がバランスよく配置されているため、トータルフィットネスとして高い評価を得ています。また子供から高齢者まで無理なく取り組める運動プログラムで、どなたでも始めやすいことから、N.O.S.Sをきっかけに日本舞踊を始める方も増えています。

この系譜を継ぐ私も、日本舞踊家としての経験値を活かして様々な取り組みを実施しています。最近では、舞台や祭り・タレントのプロデュース業や、民間企業などでの講演・コンサルティングのほか、6つの大学で日本舞踊や国際交流に関する講義を行なっています。



＼ 団体名の由来 /

西川流

江戸の宗家西川流の高弟であった西川仁蔵が名古屋に居を移し、別派として西川鯉三郎を名乗ったことが西川流の由来です。以降伝統を守り続け、現在まで代々名を継承し続けています。

＼ 愛用のアイテム紹介 /

扇子



舞台上に立つ際、最も頻りに使用する小道具です。日本舞踊は舞によって扇子を使い分けることもあり、現在は1,000本近く所有しています。写真の扇子は、いずれも縁深い方から譲り受けた大切な品です。

＼ 仕事で大切にしていることは /

創造なくして
継承なし、
継承なくして
創造なし

従来の型に固執し創造を怠れば、伝統文化は衰退し継承が難しくなるでしょう。一方で、新たな文化の創造には、先人より知恵の継承が必要です。どちらも大切にしてこそ、日本舞踊が発展すると考えています。



研修認定制度

西川流独自の研修認定制度。一般的に、名取(「西川」の苗字の使用が許されること)になるには7~10年程度の稽古が必要と言われますが、最短半年から認定を受けることが可能です。



西川会館

2019年に昭和区へ新築・移転した新会館。舞台のある大稽古場をはじめ小稽古場や会議室も備えています。日本舞踊の稽古場としてはもちろん、講演会、イベント会場など、様々な用途で活用できます。



名古屋をどりNEO傾奇者

10月15・16日に市内で開催される「第68回名古屋まつり」と連携して開催予定。名古屋の新旧のエンターテインメントが融合する舞台のほか、鶴舞公園内各所で多彩な無料イベントも企画しています。



NOSS(日本おどリスportsサイエンス)

三世家元西川右近によって創案された、フィットネスプログラム。日本舞踊が持つ「和」の動きをもとに、スポーツ科学を取り入れました。現在オンラインレッスンも開講中です。

「名古屋をどり」を リニューアル 西川流の新たな挑戦、



1969年に三世家元西川右近の長男として当地に生まれた私は、6歳で初舞台を踏んで以来、日本舞踊の道を歩み続け、2014年に西川流四世家元を継承しました。約半世紀、舞踊に携わる中で実感しているのは二丁の多様化です。従来、日本舞踊を習う方は、花嫁修業の一環として行ない、舞台出演にも大半が憧れを持っていました。しかし現在は、自己研鑽や趣味のひとつ、また一曲のみ舞を習得したいなど、理由は千差万別です。そのため私は、画一的な指導ではなく個々に応じた指導を心がけています。これを実現する上で欠かせないのが、個人が抱える「真の願望」を正しく把握すること。本人が意欲的に励める環境を整えさえすれば、踊りは劇的に上達するからです。私が常に相手に合わせた指導を行なう最大の理由は、伝統芸能は過去から培ってきた多くの技を「伝え」続けることが至上命題だからです。そして、きちんと「伝わる」ためには、多くの人が理解でき、支持されるべきであると考えます。

今年10月に、西川流の新たな挑戦として行なう「名古屋をどり」についても、時流に合ったものとするため、エンターテインメントを取り入れた「名古屋をどりNEO傾奇者」(以下、NEO)として実施することとしました。

NEOの公演は上下二部制で、上の「全国芸妓博覧会」では、全国の計12の芸妓団体から約90名の芸妓が一堂に会し、芸くらべを行います。下の「NEO舞踊劇名古屋心中」にはBOYS AND MENの本田剛文さん、俳優の戸田恵子さんなど名古屋に縁のあるタレントの方々の出演もあります。また当日は舞台公演以外に、公演会場がある鶴舞公園内で多彩な無料イベントも開催予定です。そのうちのひとつ「傾奇者経営者シンポジウム」と題したビジネス企画には、スーパーストックトーキーなどを経営する遠山正道さんにご登壇いただき、現代の傾奇者として、新たな挑戦や新規事業を起す際のヒントとなる話をしていただきます。

この他、名古屋市公会堂から鶴舞公園を芸妓さんがパレードする「粋ぞろい芸妓練り歩き」など、新たな取り組みを行ない、名商が事務局を務める「名古屋をどり後援会」から支援をいただき大変ありがたく感じています。

NEOの公演に限らず、伝統芸能の世界では何か新しいことを始める場合、保守層から少なからず反対の声が挙がります。しかし革新的な取り組みを進めて結果を出せば、ネガティブな言葉はいずれ耳に入らなくなると思います。逆に現在私の元には、取り組みに賛同し、ともに闘う仲間が集結しています。

西川流の枠に捉われず、
外部から多くの協力も得て
「名古屋をどり」を刷新する

より多くの興味関心を惹き
伝統の価値を高めることが
次世代継承の第一歩

後継については、家業や伝統芸能だからとの理由で血縁者が継ぐ風習を廃止したいと考えています。一生かけて芸事を極める覚悟は、血筋であるという理由のみで決まるものではありません。まずは、次世代が継承したいと思える土壌作りが先決です。

この想いを持つ私が今後進めていきたい事業は、日本舞踊を世界中に広める活動です。日本文化は、室町時代の能役者・世阿弥が語った「秘すれば花」の言葉が意味する通り、隠してこそ価値があるとの風潮があります。しかし多様な文化や価値観が溢れる現代は、自ら伝えなければ伝わらないため、西川流のすべてをオープンにしたマニュアルを作成し、海外にも広く普及させたいと考えています。

*現在新規会員募集中です。詳細は事務局(052)723-5609までお問合せください。